



Japan Society of Civil Engineers

International Activities Center

国際センター通信 (No. 29)

インフラ海外展開に技術的支援を

21世紀に入ってアジア・アフリカが目覚ましい経済発展を遂げている。

2012年、5%以上の経済成長を遂げた国は61か国あるがそのうち24か国がアフリカ、14か国がアジアだという。これらの国々では、インフラ整備が成長に追い付かない状況である。例えばメコン河流域の南部経済回廊や東西経済回廊とよばれるアジアハイウェイ1号線や同9号線では年率20~30%程度の交通量増加が見られ、ちょうど我が国の1960年代のような活況を呈している。我が国も有償・無償の援助によりインフラ整備を支援しているが、手慣れているはずの道路・橋梁整備の例でも熱帯性気候あるいは特殊土壌などに起因する技術的課題に直面して、事業に支障が生ずることが多々発生する。



古木 守靖
土木学会元専務理事
(JICA 技術アドバイザー)

近時 JICA (国際協力機構) にあってもこのような技術的課題に直接取り組みを試みているが、何といっても課題が広範囲にわたっている。急がば回れであって、個々の現場で対応するだけでなく共通的主题に、チームジャパンとして腰を据えて取り組むことも必要だ。ここに大学・研究機関、そして土木学会の活動に対する期待も大きい。一例として、セメント安定処理の耐久性、舗装のわだち掘れ対策、分散性土壌対策などがあげられる。このような共通的主题に対して日本の研究機関が相手国研究者と協力して対策を提案できれば、土木界への貢献であるだけでなく、政府開発援助の適正な執行につながり、本邦企業の海外展開支援にもつながるものである。そして多くの若い技術者にダイナミックに発展するこれらの国々の開発に参画し、課題を克服しつつ事業を遂行して、土木技術による社会への貢献を実感してほしいと願うものである。



日本の無償資金協力で整備されている完成間近のネアックルン橋 (カンボジア)
メコン流域における南部経済回廊 (アジアハイウェイ1号線) 機能が飛躍的に向上する。

調査研究部門活動紹介 第4回 土木計画学研究委員会

土木計画学研究委員会は1966年8月に設立され、来年2016年で創設50年を迎えようとしています。土木計画学研究委員会の初代委員長は、鈴木雅次先生（土木学会第32代会長）であり、1968年には土木界で初の文化勲章を受賞しています。

土木計画学研究委員会は、「土木技術者の活動範囲において、土木に関する計画の分野がきわめて重要な事態に鑑み、土木計画のあるべき姿、その問題点を検討し、あわせて計画に関する調査、研究を行うこと」を目的に、「土木計画基礎理念に関する討論、土木計画理論に関する討論、大学における土木計画教科内容に関する討論を行い、あわせて土木計画の重要性を啓蒙し、シンポジウムなどを開催するほか、研究成果の公表を随時行う」ことを事業内容としています。人々の生活を安心して快適なものにするために、道路や鉄道、公園、港、空港といった社会基盤施設を整備するための理念や方法、手順、設計、維持管理を研究するのが土木計画学であり、近年では社会基盤施設を整備する上で必要な合意形成を解明するため、社会学や心理学にも領域が広がっており、土木工学がもつ学問体系の裾野の広さを反映しています。



土木計画学研究委員会
委員長 桑原 雅夫
(東北大学)

研究発表会としては、現在、春と秋の年2回、土木計画学研究発表会を開催しています。全国の大学研究者のみならず、土木計画学に関連する実務者の参加を得て、春大会は2日間、秋大会は3日間開催され、多数の発表が行われており、昨年の秋大会で開催50回を迎えました。発表分野は、計画論から国土計画、都市計画、交通計画、交通工学、防災、災害復興、景観、土木史、合意形成といった幅広い分野で構成されています。土木計画学研究発表会は英文での発表も受け付けており、世界の皆様からの投稿をお待ちしています。

なお土木計画学研究委員会内に国際セミナー担当を設置しており、海外の研究者や実務家の来日等を利用して講演会を開催し、また大学や研究機関等で開催する講演会等の支援を行っています。講演者には、土木計画学研究委員長より講演証明書（Certificate of Appreciation）を用意しています。

創設50年に向け、2014年春大会から50周年記念セミナーを開始し、創設50年を迎える2016年には、記念式典の開催や記念の本の出版を企画しています。土木計画学がこれまで築き上げ社会に貢献した50年を振り返り、未来を創造していきたいと考えています。



研究発表会の様子



公共政策デザインコンペの様子

ベトナムでの橋梁健全性モニタリング・セミナー開催報告

2014年12月、ベトナムのホーチミン市で、土木学会（JSCE）とホーチミン工科大学（HCMUT）の共催により、橋梁の健全性モニタリング（Bridge Health Monitoring：BHM）に関する技術セミナーが開催されましたので報告いたします。

19日の午前の部では、HCMUT キャンパス内の講堂に日越両国から約80名が参加し、下記の発表がありました。

1. 「ベトナムにおける BHM の現状」（To Nam Toan 氏 ベトナム国運輸省道路総局 国際協力・科学技術局長）
2. 「Weigh-In-Motion 技術の理論と応用」（菅沼久忠氏 ㈱TTES）
3. 「光ファイバーセンサの BHM への応用」（土屋宗典氏 長野計器㈱）
4. 「BHM システムの構成とデータ活用について」（石川裕治氏 ㈱NTT データ）

今までこのようなセミナーは北部のハノイで多く行われていましたが、今回は南部での活動を強化するためにホーチミン市で開催されました。ベトナムでは老朽化した既設の中小橋梁が多くあり、また近年次々に建設される斜張橋などに対する BHM がますます重要視されています。このような背景を踏まえ、Q&Aセッションでは各発表者との間で活発な意見交換がありました。

午後の部では日本からの参加者と HCMUT の先生など、約10名が参加して円卓会議が開かれました。この会議では各グループから提案された具体的な項目についての情報交換や、その連絡網の確認などが話し合われました。

翌20日には HCMUT の先生方の案内で、Saigon Bridge などの市内の代表的な橋梁を見学しました。

ベトナムグループでは、今回のセミナーを橋梁分野での今後の日越技術協力の第一歩と位置づけています。今回の催しが単発の技術セミナーで終わることなく、将来の緊密な技術協力、具体的なプロジェクトの実施、ベトナム各地への展開へと発展していくためのフォローを引き続いて行う予定です。



セミナー参加者と HCMUT の先生方



円卓会議の状況

[記 国際センター国際交流グループ ベトナム Gr.]

【参考文献】石塚敬之：ベトナムで橋梁健全性モニタリングのセミナーを開催、橋梁と基礎、Vol. 49、No. 2、pp. 83、2015年2月

※今号掲載報告記事の所属、肩書はイベント開催当時のものです。

イベントカレンダー

- 2015/3/16・・・第3回国連防災世界会議 関連行事（土木学会共催）公開シンポジウム 「あの日」から、土木技術者がしたこと <http://committees.jsce.or.jp/2011quake/node/174>
(会場：宮城県庁 2F 講堂)
- 2015/3/23・・・世界で活躍する日本の土木技術者シリーズ 第4回シンポジウム開催
「世界を結ぶ国際インフラ：港湾インフラシステム輸出戦略とパシルパンジャン港建設プロジェクト」 <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/74>
(会場：東京一土木学会講堂)
- 2015/3/27～28・・・第28回アジア土木学協会連合協議会（ACECC）理事会（バングラデシュ・ダッカ）
- 2015/4/2・・・2014年度米国土木学会（ASCE）年次大会 パナマ運河100周年記念大会報告（特別講演、DVD上映）国際センター 交流グループ・米国 Gr.主催
(会場：東京一土木学会講堂) <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/76>
※近日土木学会ホームページにて参加申し込みを受け付けます。

お知らせ

- ◆ 土木学会誌の特集記事の概要を JSCE の website（英語版）にアップしました。
<http://www.jsce-int.org/pub/magazine>
- ◆ 土木学会コンクリート委員会 ニュースレター No.40 が発行されました。
<http://www.jsce.or.jp/committee/concrete/e/newsletter/Newsletter.htm>
- ◆ 土木学会創立100周年記念切手が2014年9月1日に発行されました。
<http://jsce100.com/node/250>
- ◆ 協定学会 European Council of Civil Engineers（ECCE）より書籍「Footbridges- Small is beautiful」が発行されました。日本の歩道橋も錦帯橋を始め17点紹介されています。<http://www.eceengineers.eu/>
- ◆ JSCE 韓国分会事務所が、ソウル市江南区にオープンしました。お近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。
《JSCE 韓国分会》 分会長：金在權
住所：135-910 ソウル市 江南区テヘラン路 25 Gil, 20 駅三 Venturetel 1605 号
Tel : +82 (0)2-6925-4563 E-mail : jkviva@gmail.com

購読申し込み

国際センター通信購読の申し込みは以下の URL よりお願いいたします。また、周囲の方に国際センター通信をご紹介いただければ幸いです。よろしくお願いたします。

「国際センター通信配信希望者 登録フォーム」

- ・日本語版：<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/31>
- ・英語版：<http://www.jsce-int.org/node/150>

◆掲載記事募集します◆

国際センター通信では、会員の皆様から幅広く投稿記事を募集しています。テーマはプロジェクト紹介、技術紹介、ご自身の体験談などです。文字数は800字程度で和文または英文でご投稿ください。

記事投稿の詳細はコチラ>>> (<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/47>)

編集後記

日本の1月と2月は、寒い冬というだけでなく、受験生にとっては入試のシーズンでもあります。国立大学を希望する人は、毎年1月に実施されるセンター入試を受験しなければなりません。さらに、2月には多くの私立大学の入試が実施されます。受験生は、入試にむけて必死に勉強をしていると思いますが、いい結果が届く人もいれば、残念な結果に終わる人もいます。しかし、それが人生です。

私としては、できるだけ多くの方が土木工学の専攻に出願してくれることを祈ります。また、日本の大学は海外からの留学生もお待ちしておりますので、遠慮なく各大学に問い合わせてください。(S.K.)

【ご意見・ご質問】: JSCE IAC: iac-news@jsce.or.jp

本通信をより話題性に富んだ内容にするため、皆様のご意見やコメントをお聞かせください。